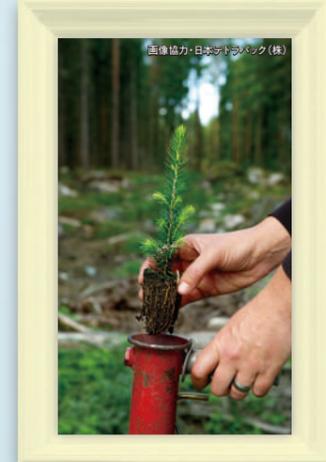


コープの エシカル =Ethical=

それは誰かの笑顔につながるお買い物

2025



本レポートは、環境に配慮した印刷方式を採用しています。



この用紙は、FSC®認証材および管理原材料から作られています。

日本生活協同組合連合会 ブランド戦略本部
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ
メールアドレス: goods.kouhou@jccu.coop

- 商品の取り扱いには会員生協ごとに異なります。
- 掲載内容は発行時点の情報となります。



2025年3月制作

未来のためにCO・OP商品がめざすこと

すべてのCO・OP商品をエシカル消費対応に

商品が原料から
つくられ利用される
すべての工程において、
持続可能性を追求し、
SDGsの実現に
貢献します。



CO・OP商品のエシカル消費対応の歴史

生協の歴史の中で多くの組合員が暮らしや社会をより良くするため、さまざまな活動に取り組んできました。食の安全問題・地域の農畜水産業への支援・環境問題への対応など、CO・OP商品や生協の事業・組合員活動を通じて社会的課題へ取り組み続ける生協は、エシカル消費との関係性が深いといえます。

1969

環境に配慮した
洗剤「セフター」発売



1990

ステイオンタブ飲料缶発売



2010

CO・OP
コアノンスマイルスクール
プロジェクトスタート



2017

インドネシア・
エビ養殖業改善
プロジェクト



2019

ラベルレスペットボトル
「ラベルのない水
(あずみ野)2L」発売



これからもCO・OP商品は「持続可能な社会の実現」に向けて
エシカル消費を推進していきます。

持続可能な開発目標SDGsとは

2015年9月、国連において採択された目標です。「誰一人取り残さない社会の実現」や「持続可能な地球環境」をめざし、将来にわたってこの地球で人間らしく生活し続けるために必要な17の目標が掲げられています。



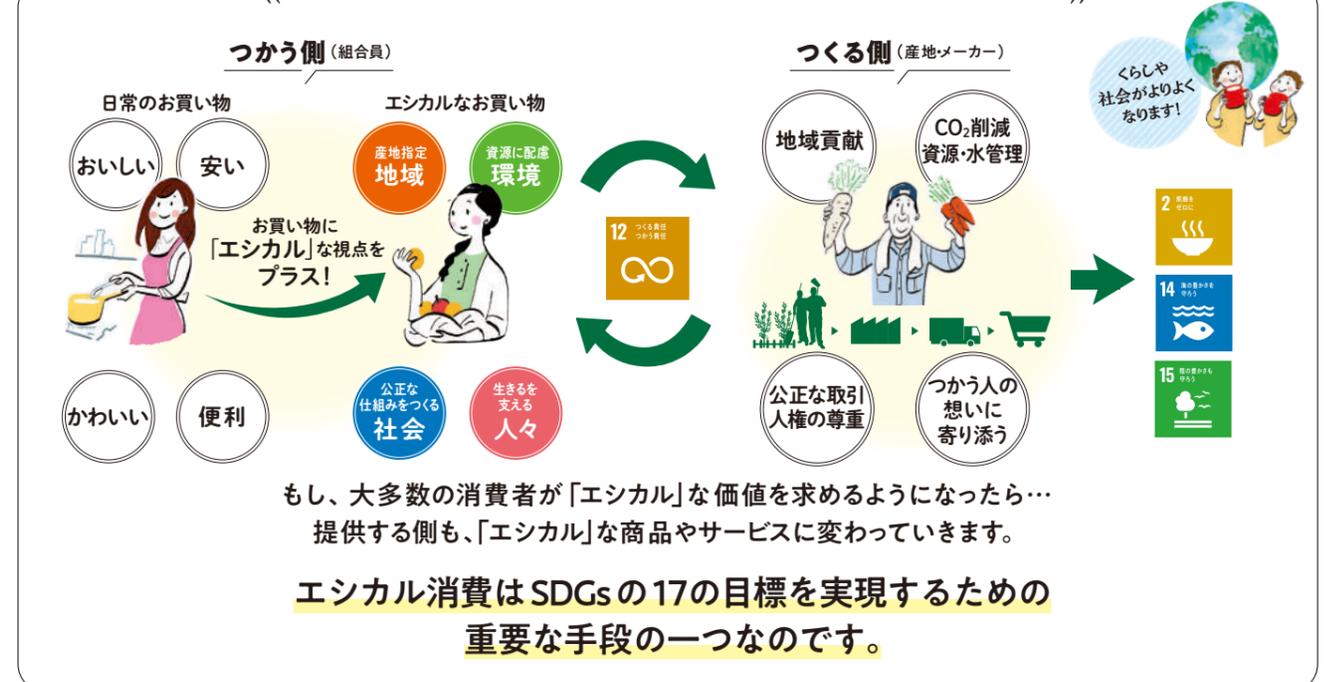
ふだんの買い物で変えられる未来

エシカル消費とは

エシカル消費とは、買い物をするとき自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスする消費のことです。生協ではこれを「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、「地域」「環境」「社会」「人々」の4つの視点で進めています。



「エシカル消費」とは、「誰かの笑顔につながるお買い物」



CO・OP商品のめざす未来

2021年日本生協連は、持続可能な社会の実現に向けて全国の生協で推進する「生協の2030環境・サステナビリティ政策」の策定に合わせて、「コープ商品の2030年目標」を設定しました。これは、CO・OP商品の開発・卸を担う日本生協連が、2030年に向けた各原料資材等(農産、水産、紙・パルプ、パーム油、容器包材プラスチック、食品ロス削減)の持続可能な調達目標について定めたものです。



〈詳しくはこちら〉

CO・OP商品は以下の取り組みを積極的に推進します

日本の農畜水産業応援

産地と「つながる」「守る」「確保する」「販売する」ことで地域を元気にする取り組み



食品ロス削減に貢献する商品

規格外となった原料を使用するなど、食品ロスの削減に貢献する商品を積極的に開発



包装資材の環境配慮

包装資材(パッケージ)においてプラスチック使用による環境負荷を軽減するためのさまざまな取り組みや、紙パッケージにおける再生紙・認証紙への切り替えなど



環境・社会に配慮した商品

地球環境や限りある資源の保全とともに、生産者の人権に配慮し公平な社会をめざした商品を積極的に開発



寄付金付き商品

日本国内の問題やSDGsの課題解決の最前線で活動する国際機関やNGOなどを、対象商品を購入することで支援



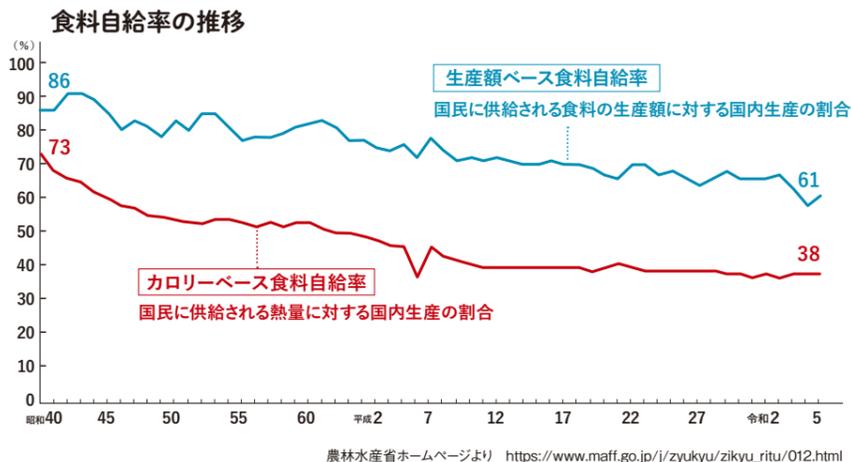
生産者と消費者がつながる

産地指定・国産素材

CO・OP商品では日本の農畜水産業を持続可能なものにするために、生産者と組合員の交流を深めながら、生産者の支援と食料自給の向上に貢献する仕組みづくりをめざしています。

日本の食料自給率

日本の食料自給率は、長期的に減少傾向で推移しており、先進国中最低水準となっています。食料自給率は、食料の国内消費に対する国内生産の割合を示したものです。国全体で見るときに消費した食料に対して国産がどれくらいかを表す数字です。



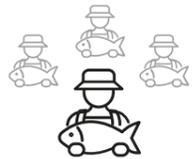
日本の農畜水産業をとりまく現状



地球温暖化の影響による
猛暑や豪雨、海水温の上昇等による
生産量や品質の不安定化



肥料や飼料・燃料費の
高騰が引き起こす生産コストの
上昇による経営の圧迫



生産者の高齢化、
後継者不足による
農畜水産業従事者の減少

CO・OP商品では国産原料の産地連携強化と使用量拡大など、商品開発を通じて生産者の支援と食料自給の向上に貢献する仕組みづくりをめざします。

CO・OP商品の取り組み

これらの課題を受けてCO・OP商品では日本の農畜水産業が未来に続くよう応援するために、国産原料を使用した商品開発を積極的に進めていきます。

産地指定

国産素材

CO-OP

特別栽培
宮崎のカット
ほうれん草



CO-OP

おいしいご飯
(山形県産
はえぬぎ使用)



国内地域

産地指定

利用・交流・コミュニケーションを通して、
産地と信頼関係をつくります。

8 産地連携
推進計画

12 つぶコーン
つづき連携

産地指定

主要な原材料に産地や栽培方法が明らかな
国産素材を使用した商品にマークをつけています。



産地(生産者または生産者団体)指定で
栽培方法が明らか



産地の訪問点検により、
品質・安全性の確認ができる



産地とのコミュニケーションが取れる

コミュニケーションから生まれる産地とのつながり

CO・OP北海道のそのまま枝豆

産地での厳格な栽培管理と生産管理、そして生協での長年の供給実績という信頼とつながりで「CO・OP北海道のそのまま枝豆」は組合員の元に届けられます。

生産者(枝豆農家)

期間を定めて違った種類の作物を植える「輪作」で連作障害を防ぎ、肥料・農薬は指定されたものを用いるなど、JAとの約束事を守った栽培方法で生産します。



製造工場

鮮度が命の枝豆を、収穫してから約3~4時間以内に急速冷凍加工することで、枝豆本来のおいしさを生かした商品としてお届けしています。



日本生協連商品担当

収穫シーズンになると産地に伺い、直接生産者と顔を合わせて生育状況を聞くなど、コミュニケーションを取ることで信頼関係を築いています。



生産者に聞きました!

●枝豆は肥料の量が重要で、あげすぎると背が高くなりすぎて倒れるなど、収穫に影響が出てしまいます。小麦やじゃがいもなどほかの生産物との輪作で生産することが多いのですが、前の年に何を育てていたかによっても影響が出るため、農家の経験値次第という部分が多いです。

●機械で収穫する枝豆は、倒れてしまうと折れたり抜いたりして枝ごと収穫されてしまいます。そうすると加工場で枝がうまく分離できず、豆が無駄になってしまうことが多いため、気を付けています。

北海道の広大な大地と
寒暖差から生まれた枝豆は、
甘味が強くとてもおいしいです。
みなさんぜひ食べてみてください!

組合員に
メッセージ

芽室町枝豆生産組合
棚瀬陽一さん



CO-OP

北海道の
そのまま枝豆



その他の
商品の
一例

CO-OP

三陸産
茎わかめ



CO-OP

日本の苺ジャム
(長崎県産苺使用)

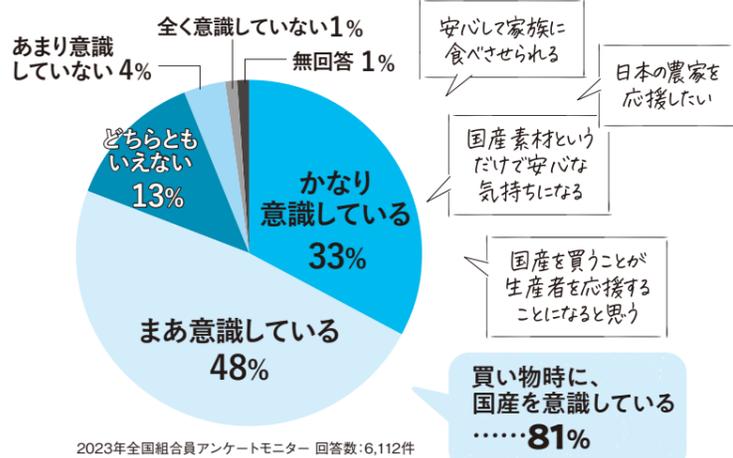


CO-OP

北海道のつぶコーン

国産素材

「買い物の時に国産を意識している」という声が組合員から数多く寄せられています。CO・OP商品ではそういった声に応えるため、国産原料を使用した商品にわかりやすいマークをつけました。「国産原料を使った商品の利用が広がることで日本の農畜水産業を応援したい」。そんな想いが「国産素材」マークには込められています。



CO・OP 信州産ストレートトマトジュース食塩無添加

昼夜の寒暖差、日照時間の長さなど、トマトの栽培に適した信州の産地では、夏場に早朝から手摘みを中心に収穫作業が行われています。近年の気候変動、生産者の高齢化や人手不足といったさまざまな問題から、昨今は原料となるトマトの安定的な確保が困難になりつつあるのが現状です。人手不足による産地縮小に歯止めをかける方法として、製造元では機械を用いた収穫方法に対応したトマトの栽培技術も導入しています。ジュース用国産トマトの安定した調達と産地の維持に向け、生産者とともに試行錯誤しながら取り組みを進めています。発売から40年以上、生産者と製造元の努力によって支えられているロングセラー商品です。



信州産ストレート
トマトジュース
食塩無添加



CO・OP 国産大豆の無調整豆乳(フクユタカ)

国産大豆「フクユタカ」から搾汁した豆乳です。外国産大豆を使った市販品も多いなか、コープでは豆腐の素材としても使われる良質な国産大豆を選び、大豆の自然なおいしさを生かした豆乳を提供しています。



国産大豆の無調整豆乳
(フクユタカ)



「未来につながる」食材の活用を 食品ロス削減

選別工程で生鮮用の規格に沿わなかった原料を使用するなど、食品ロスの削減に貢献する商品開発をめざします。



まだ食べられるのに食べ物が捨てられてしまうことを「食品ロス」といいます。日本生協連では、食品の廃棄を極力削減するために、取引先とともに余剰食品の有効活用など食品ロス削減のさまざまな施策に取り組みます。

「規格外原料を使用した商品の積極的開発」

CO・OP商品では「規格外原料」「活用していない原料」のうち、「廃棄に回る＝再生利用仕向先のない原料」を使用した「食品ロス削減商品」の開発を積極的に推進します。また、食品ロス削減商品であることが組合員に伝わりやすいよう、パッケージにもわかりやすく表記しています。



CO・OPざくざくブロックチョコレート

CO・OP九州の芋けんぴなどを製造するときに出る「かけらの芋けんぴ」を無駄なく使用しています。



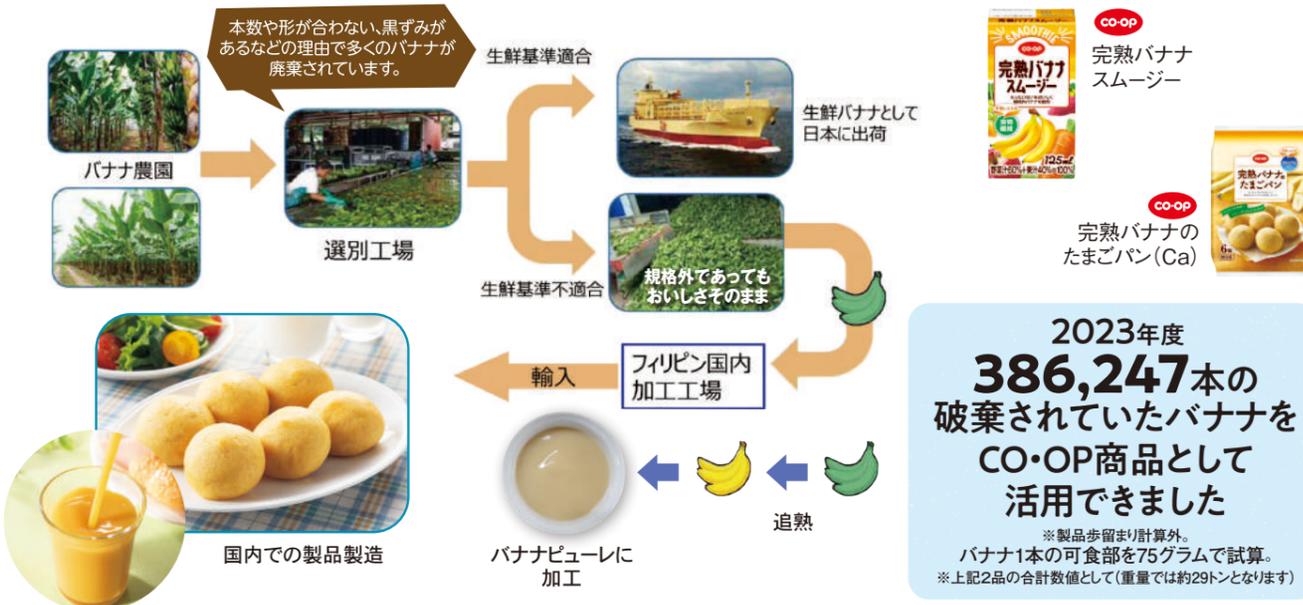
「CO・OP九州の芋けんぴ」を製造するメーカーを訪問した際、かけらの芋けんぴがもったいないので何かに使えないか? と考えたのが開発のきっかけです。試行錯誤を繰り返した結果、かけらの芋けんぴをチョコレートで固めることで製品化に成功しました。ミルク・ホワイト・ビター等、複数のチョコレートで試作してチョコレートを選定し、くちどけがよく、芋けんぴとの相性のよい商品に仕上げることができました。



菓子飲料部
担当

CO・OP 完熟バナナスムージー CO・OP 完熟バナナのたまごパン

原料のバナナの選別工程で生鮮用の規格に沿わなかったバナナを使用し、食品ロスの削減に貢献します。



2023年度
386,247本の
破棄されていたバナナを
CO・OP商品として
活用できました

※製品歩留まり計算外。
バナナ1本の可食部を75グラムで試算。
※上記2品の合計数値として(重量では約29トンとなります)

包装資材の環境配慮

「つくる」から「すてる」まで商品の一生を考える

エコマーク

環境への負荷が少なく環境保全に役立つと認められた商品につけられるマークです。

再生を待つ回収ペットボトル
協力:東京ペットボトルリサイクル(株)

エコマーク商品



http://goods.jccu.coop/
ecomark.pdf

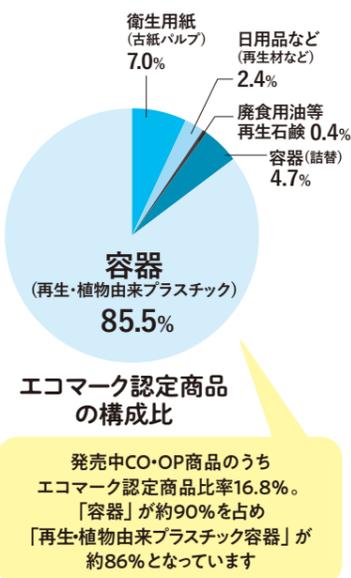


エコマークとは

エコマークは、公益財団法人日本環境協会が国際的な規格に基づいて運営し、さまざまな商品(製品およびサービス)の中で、「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルです。

CO・OP商品とエコマーク

1989年3月に日本初のエコマーク認定商品が登場。CO・OP商品はその翌年1990年よりエコマーク認定商品の開発を開始しました。以来、古紙使用、再生材料使用、詰め替え容器対応など商品の種類・点数を増やしてきました。近年では特にプラスチック問題を解決すべく、再生プラスチック・植物由来プラスチックが大幅に増えています。



外箱やパッケージも環境配慮に

FSC®

紙製品だけでなく、パッケージ・段ボールも責任ある森林資源の使用をめざします。

画像協力:日本テトラパック(株)



責任ある森林管理のマーク



FSCとは

FSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会) は責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする独立した非営利団体で、国際的な森林認証制度を運営しています。FSC認証は、適切に管理された木材と責任ある調達をされた製品を確実に消費者に届けることで、森林資源の保全を消費者が支える仕組みです。



FSC認証商品の拡大

2012年紙製品からスタートし、紙パック、そして段ボールや紙容器など対象をパッケージまで広げ認証商品を大きく拡大しています。FSC認証段ボールは、商品数で1,400品以上、使用枚数ベースで60%程度になっています。



※パッケージは当時のデザインです。

TOPICS エコマークアワード2024 最優秀賞を受賞しました!

数多くのCO・OP商品での幅広いエコマークの活用が評価されました。日本生協連は「エコマークアワード 2011」においても金賞を受賞しており、エコマークアワード初の「二度目の最高賞受賞」となります。



表彰式の様子

エコマークアワードとは?

公益財団法人日本環境協会が2010年度に創設した表彰制度です。環境配慮商品の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク事業の目的である「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体等を表彰するものです。



詳しくはこちら

エコマークの新しい取り組みも!

マスバランス方式でバイオマス由来特性を割り当てたプラスチックのパッケージの使用を開始。バイオマス割当プラスチック使用で初のエコマーク認定商品となります。

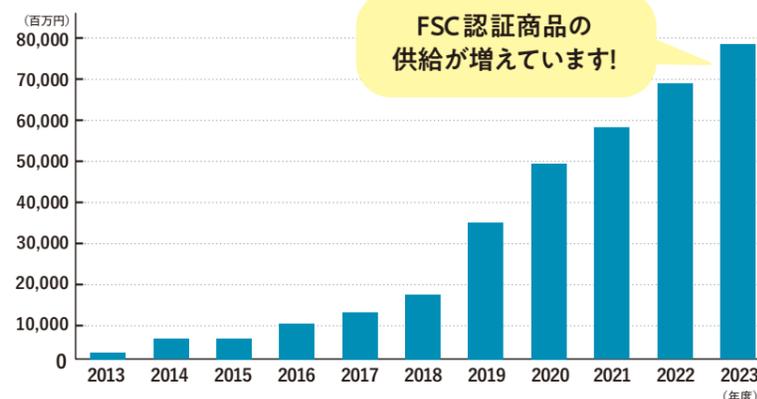


第1号商品の「CO-OP 味付のり」

CO・OP商品のFSC認証商品は、商品からパッケージ・段ボールまで幅を広げ急増しています。

2013年度 4品・約21億円 ⇒ 2023年度 469品・約778億円

組員供給推計金額推移



FSC認証商品の構成比



FSC認証商品の約9割はパッケージ容器です



※輸送用段ボールは含まず



コープサステナブル



海の資源を守る

海の恵みは私たちの毎日の食卓に欠かせません。その海の恵みを、未来の子どもたちまでつなげていくためにCO・OP商品の取り組みを紹介します。

未来につながる魚を選ぼう



「海の資源を守る」とは



生産者

- ・決められた時期に決められた量を守って漁獲
- ・環境に配慮した漁法や、漁網などに工夫
- ・対象でない魚種の混獲をできるだけ防ぐ



メーカー・生協

- ・魚を知り尽くしたメーカーの熟練の技で組合員に喜ばれる商品づくり
- ・手軽においしく食べられるようにさまざまな工夫を発信



組合員

- ・選んで買っておいしく利用
- ・商品がどこからきたか生産者の顔を思い浮かべる



海の恵みを未来に残す

CO・OP 無着色ひとくち辛子明太子・たらこの原料はアラスカ産スケトウダラの卵。アラスカでは「それぞれの魚の資源量を維持できるように乱獲しないこと」と「魚だけでなくそれを取り巻く生態系全体を守ること」は「責任ある漁業」として約束され、厳しく管理されています。



MSC 「海のエコラベル」 持続可能で適切に管理された漁業で獲られた水産物につけられる認証ラベルです。



生産者 — 決められたさまざまなルールを守り、生態系と環境に配慮した漁をします。



船ごとに獲ってよい魚の量は決められています。また獲ってよい魚種も定められており、守らないと厳しいペナルティが課されます。



スケトウダラを漁獲する際には、上部からレーザーが出ている網を使用します。これはサーモンの走光性(光源に対して一定に運動すること)を利用して、一旦網に入ってしまったも自ら網から出ていくように仕向け、混獲を防ぐためです。

メーカー・生協 — 持続可能性に配慮した原料をおいしくいただけるよう心を込めて加工しています。

サステナブルな原料をおいしくいただくための商品づくりへのこだわりも「コープサステナブル」ならではの「CO・OP 無着色ひとくち辛子明太子・たらこ」は、メーカー社長自らアラスカまで出向き、漁にも同行。乗組員との密なコミュニケーションが良質な原料の確保につながるそうです。



鮮度にこだわり、船上凍結した原料を輸入

明太子の本場・福岡の工場で、経験豊かな熟練スタッフがほぼ手作業で選別やカットを行っています。

組合員 — 選んでおいしく食べるのはもちろん、商品がどのように自分たちの食卓に届くのか知ることも、大切な取り組みです。



工場産地交流会などの学習会で、どのような漁で原料が獲られるか、メーカーと組合員でコミュニケーションが取れるのも、生協ならではの取り組みです。

その他の商品の一例



CO-OP 骨取り赤魚の煮付け(しょうゆ)



CO-OP フィッシュソーセージ



CO-OP レンジでお星さまの白身魚のフライ

日本の水産業と魚食文化の発展のために

組合員から長く愛される「CO・OP ふっくらしらす干し」は2022年3月「コープサステナブルシリーズ」に仲間入り。原料のしらすを漁獲する大阪湾と紀伊水道の「しらす船びき網漁業」は、2020年にMEL 漁業認証を取得しました。



紀伊半島と四国に挟まれた穏やかな紀伊水道



MEL 認証

マリン・エコラベル・ジャパン(MEL)認証は、水産資源の持続性と環境に配慮している日本の事業者(漁業・養殖業)を認証する制度です。



紀伊水道などで元気に育ったしらすを、水揚げ→輸送→炊き上げ→乾燥→選別→袋詰め→冷凍まで、すべてをひとつの工場で一貫生産しています。



CO-OP ふっくらしらす干し



コープサステナブル



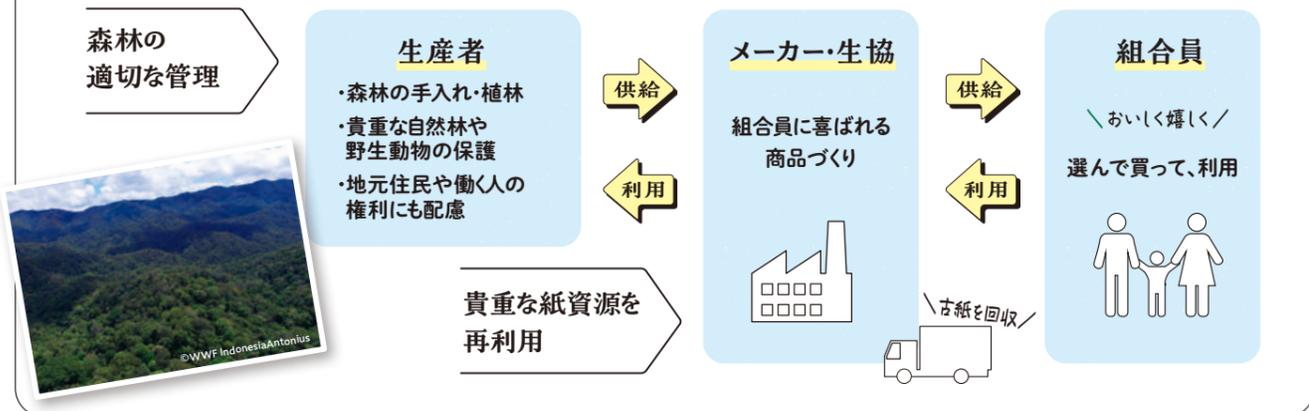
森の資源を守る

森は木材や食糧、水や空気など生物が生きていくために欠かせない多くのものを恵んでくれています。森を守り続けるためにできること、考えてみませんか？

未来につながる森の循環をめざして



「森の資源を守る」とは



「いつまでもおいしいコーヒーが飲み続けられるように」



CO・OPコーヒーバッグは、現在10種類*を展開していますが、うち7種類はレインフォレスト・アライアンス認証コーヒー豆を使用しています。環境保護、労働者の人権や生活向上など、より持続可能な農業のための基準を遵守する農園からの原料を、90%以上使用した製品に認証マークの使用許可が与えられます。*2025年1月現在



レインフォレスト・アライアンス
 人と自然にとって、より良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味するマークです。詳しくはra.org/jaをご覧ください。

個包装パッケージにも認証マークを記載します

CO・OP商品では2016年に発売された「スペシャルブレンド」コーヒーを皮切りに、コーヒーや紅茶、チョコレートなどさまざまな認証マーク付き商品を増やしてきています。取り組みについてもっと多くの組合員に知ってもらうために、2025年春からはコーヒーバッグの個包装パッケージにも認証マークとプログラムの説明を記載したものに変更します。



近年生産国における干ばつや洪水などの発生でコーヒーの収穫量が減少しています。また世界的に需要が高まっていることもあり、原料価格は急騰しており、価格と品質の両立は困難な状況となっています。おいしいコーヒーをこれからも飲み続けられるようにレインフォレスト・アライアンス認証について知ってもらい、取り組みに共感し、コーヒーを選ぶ際の選択肢にしてもらえたらうれしいです。



菓子飲料部 担当

【貴重な紙資源を再利用】

FSCリサイクル紙

FSC認証では、古紙を再利用して紙を製造することについても新しく木を伐採する必要がないため、間接的に森林保護につながると考えており、回収原材料を100%使用したりリサイクルペーパーについても、適正な管理の下、FSCリサイクルラベルをつけることが可能です。



飲料パックなどの無漂白原料をリサイクルしています



責任ある森林管理のマーク

FSC

森林の環境や地域社会に配慮して作られた製品であることを示すマークです。



CO-OP 未晒し原料を再利用したトイレペーパー

ゴミになる芯をなくし、無駄を省きました

ミックスラベルもあります



CO-OP ティッシュ

この製品は、適切に管理されたFSC認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

【持続可能なパーム油の生産を応援】



パーム油は熱帯で育つアブラヤシという植物からとれる油で、日本で使われる植物油の1/4を占めるといわれています。マーガリンや即席麺、チョコレートなどの食品や石けん、洗剤、化粧品など幅広く利用されているパーム油の持続可能な生産を応援します。

パーム油の原料であるアブラヤシの生産をめぐる、さまざまな問題があります。

自然破壊・生態系の劣化
 農園開発のための熱帯林伐採や焼失
 野生動物や生物多様性への影響

環境汚染
 土壌・水・大気の汚染

労働問題
 農園での劣悪な労働環境や人権侵害

土地紛争
 先住民地域住民への影響・負荷



3-0098-17-100-00

RSPO

CO-OP商品では、パーム油原料のアブラヤシ産地で生じているさまざまな問題の解決をめざすRSPO認証を受けたパーム油の使用を積極的に進めています。

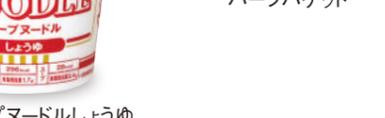
パーム油とは



©WWF-US_DES Syafriza



Cakes Cleanser Cosmetics
 即席麺やパン、ポテトチップスなどの食品、石けん、洗剤、化粧品など、幅広く使われています。



CO-OP コープヌードルしょうゆ

※製造過程で、認証油と非認証油が混合される認証モデルです。物理的には非認証油も含んでいますが、購入した認証油の数量は保証されています。

フェア(公正)な価格で生産者を守る

フェアトレード

公正な取引で途上国の暮らしを支援します。

フェアトレードとは

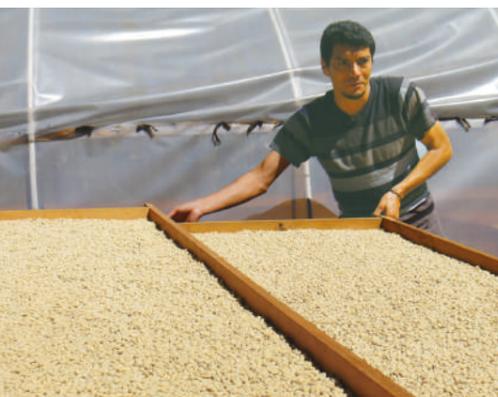
発展途上国の農産物や製品などを不当に安く買うのではなく、農家の生活が成り立つように考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し、生産者の生活を支える取り組みです。

途上国の生産者について

途上国の生産者の多くは情報や技術が少ないため、弱い立場におかれています。そのため苦しい生活からなかなか抜け出せません。

「最低価格」で生産者を守る

最低価格とは、市場価格が下がっても、生産者からの仕入れの際に保証している基準の取引価格をいいます。生産コストをまかない、経済的・社会的・環境的に持続可能な生産と生活を支えます。



寄付金付き商品

ふだんのお買い物でできる身近なエシカル消費

寄付金付き商品



あなたのお買い物が誰かの笑顔につながります。



海外 環境

コープの洗剤環境寄付キャンペーン

インドネシアの小規模パーム農園の持続可能な生産などを推進するプロジェクトを支援します。

日本生協連は、2018年からWWFジャパンを通じ、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家などが適切な農園管理方法を学び、生産性を高める活動を支援してきました。2022年度からは従来の小規模農家支援に加え、より広範囲で多くの農家がサステナブルな農業を営むようになることで熱帯林破壊が抑止できるよう、地方自治体への働きかけを強化し、この支援活動をインドネシアの他の地域へ

広げていくことをめざしています。



対象商品の一例



セフターENERGY(エナジー) 抗菌・防臭



独立小規模農家と森林破壊のメカニズム



支援を通してできる活動の例

- 1 保全すべき森を住民で守るトレーニング
- 2 農家の生計が向上する仕組みづくり
- 3 地方自治体の政策策定支援

[2025年度キャンペーン期間]
2025年5月21日～2026年5月20日(通年)
2023年度全国の生協での寄付金総額
274万9,066円

取り組み内容

- 1 対象商品をお買い求めください
- 2 1品につき0.5円をWWFジャパンに寄付
- 3 持続可能なパーム油の生産などを支援する活動につながります

海外 環境

スマイルグリーンプロジェクト

ブラジルのアトランティックフォレストで実施されている、森林再生などの活動を支援するキャンペーンです。



2022年11月よりスタートした取り組みです。CO・OPティッシュ、芯なしトイレットペーパー(コアノンシリーズを除く)を1パックご購入いただくごとに1円がWWFジャパンを通じてブラジルに寄付され、WWFが推進するブラジルアトランティックフォレストの森林再生活動などを支援します。

対象商品の一例



ティッシュ



未晒し原料を再利用したトイレットペーパー



ワンタッチ芯までロール

[2024年度キャンペーン期間]
2024年11月1日～2025年10月31日(通年)
2023年度全国の生協での寄付金総額
1,025万3,407円

取り組み内容

- 1 CO・OPティッシュ、芯なしトイレットペーパー(コアノンシリーズを除く)いずれかをお買い求めください
- 2 1パックにつき1円をWWFジャパンを通じてブラジルに寄付
- 3 森林を再生し、人と自然、動物たちが共存できる環境づくりに使われます

責任ある農業を応援

NEWS

生鮮農産品のGAP[※]推進の取り組みを強化!

コープのフィリピン高原バナナ・フィリピンバナナにGGNラベルがつけます!

日本生協連では、2024年9月、全国の生協組合員に多く利用されている「園地指定コープのフィリピン高原バナナ」をGGNラベル付き商品にしました。また「園地指定コープのフィリピンバナナ」についても順次切り替えを予定しています。生鮮農産品のGAP推進の取り組みを強化し、責任ある農業を応援します。



(現行パッケージ)



コープのフィリピン高原バナナ・フィリピンバナナ

※GAP... Good(適正な/良い)・Agricultural(農業の)・Practices(実践・やり方)の頭文字をとったもので、「適正農業規範」や「農業生産工程管理」と呼ばれています。GLOBALG.A.P.(グローバルギャップ)認証とは、それを証明する国際基準の仕組みをいいます。



GGN:4063651846348

GGNラベル

食品安全、労働環境(安全・健康・福祉)や人権、環境保全等に配慮した責任ある生産工程の実践のための国際基準GLOBALG.A.P.(グローバルGAP)を実践し、独立した第三者の審査機関から認証を取得した農場で生産されたことを示しており、生産している農場までさかのぼることができる商品につけられるラベルです。



インドネシア・エビ養殖業改善プロジェクト

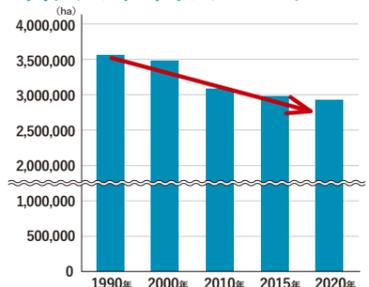
環境と社会に配慮したエビ養殖業への改善を進めています。



インドネシアのエビ(ブラックタイガー)養殖業が抱える問題

持続可能性の観点から、インドネシアのブラックタイガー養殖業では主に2つの大きな問題があります。

1. 失われるインドネシアのマングローブ



2. 養殖業者が直面する困難

- 養殖の生産性の低下
- 生産者の減少
- 生産者の高齢化



現地の様子が伝わる動画はこちら!



国連食糧農業機関 (FAO) 「Global Forest Resources Assessment 2020 Report Indonesia」より作成

インドネシア・エビ養殖業改善プロジェクトとは

インドネシアのエビ(ブラックタイガー)養殖が環境や社会に配慮しながら未来に続くように、「生態系・生物多様性の保全」、「持続可能な地域住民の生計確立と水産物の生産・消費」を目標に、日本生協連は現地のエビ加工会社、WWFインドネシア、WWFジャパンの4者が協働するプロジェクトを2018年7月にスタートしました。



プロジェクトのこれまでの成果

- ・中部ジャワ州で2024年3月にブラックタイガーのASC養殖場認証を取得(拡大に向けて継続中)。
- ・南スラウェシ州と中部ジャワ州のマングローブ再生で2024年6月までに13.41haで根付き成長が確認できました。



プロジェクトの活動紹介



適切な養殖池の管理や、生産者への持続可能なエビ養殖に関する研修



WWF-Indonesia



WWF-Indonesia

生態系の回復・保全をめざしたマングローブ再生

ブラックタイガー養殖業改善協力金とは

上記の「エビ養殖業改善プロジェクト」に対して、コープのブラックタイガーを使用した商品の購入を通じて寄付をする取り組みが、2019年3月よりスタートしました。

1

粗放養殖マークのついたブラックタイガー商品を購入。



粗放養殖マーク

2

「ブラックタイガー養殖業改善協力金」として寄付。



3点あたり1円寄付します

3

寄付金は、以下のような活動に使われます。

- 生態系の回復・保全をめざしたマングローブの再生
- 環境配慮型の養殖に必要な水質管理

エビ生産者への持続可能なエビ養殖に関する研修



CO-OP

サクッとプリプリえびフライ(特大)

CO-OP

大きなご馳走えびフライ

2023年度 (2023年3月21日～2024年3月20日) 全国の生協での寄付金総額

615万6,384円

CO・OP×レッドカップキャンペーン

飢餓に苦しむ子どもたちに給食を ▶ 学校に行けば食べられる、学べる。



レッドカップキャンペーン



飢餓から救う。未来を救う。 WFP 国連世界食糧計画



ミャンマー連邦共和国 (以下ミャンマー) どんな国

ミャンマーは世界で6番目に飢餓が懸念される国であり、1,330万人が深刻な食料不安に陥っています。また緊急レベルの食料不安に直面している人の数が世界で3番目に多いです(270万人)。



©WFP/Myanmar

2014年10月よりスタートした取り組みです。飢餓に苦しむ子どもたちに学校給食を届けるため、国連WFP協会を通じて寄付をするキャンペーンです。2023年から始まった第4期は、第3期に引き続きミャンマー連邦共和国での活動を支援します。

ミャンマーにおける学校給食支援

現在ミャンマーの学校給食支援は地産地消型の支援となっています。地元の小規模農家やマーケットから食材を調達し、現地で給食を調理することで地域経済の活性化や農家の所得の安定、生産性の向上につながります。



©WFP/Srawan Shrestha

2023年の学校給食支援 ▶ 9つの州・25万人(2,200校) 学校に通えるようになった生徒: 87% ▶ そのうち学校を卒業した生徒: 95%



©WFP/Myanmar



国連WFP協会とは 飢餓のない世界をめざし活動する国連機関の日本における民間窓口です。

2024年に10年目を迎えました! 2025年も引き続き子どもたちの「食べられる、学べる」を応援します。



第1期 (2014年～2016年) ガーナ共和国



第2期 (2017年～2019年) カンボジア王国



第3期 (2020年～) ミャンマー連邦共和国

学校給食1食は約30円で提供できます。これまでの支援で、およそ162万食分を提供できました。

対象商品の一例



CO-OP コープヌードルしょうゆ

[2025年度キャンペーン期間] 2025年10月1日～11月10日(期間限定) 2024年度全国の生協での寄付金総額 401万5,975円

取り組み内容

- 1 キャンペーン期間中対象商品をお買い求めください
- 2 1品につき1円を国連WFP協会に寄付
- 3 飢餓に苦しむミャンマーの子どもたちに学校給食を届けるために使われます

コアノンスマイルスクールプロジェクト

アンゴラの学校づくりを支援する ▶ 楽しく学べる環境づくりに役立ちます。



2010年11月よりスタートした取り組みです。「CO・OPコアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国(以下アンゴラ)に寄付されます。

[第15期キャンペーン期間]
2024年11月1日～2025年10月31日(通年)

第14期全国の生協での寄付金総額

1,703万8,080円 ※日本生協連補填含む

アンゴラの子どもの状況

- 5歳未満児の死亡率 出生1,000人あたり67人
- 慢性的な栄養不良に苦しんでいる5歳未満児の割合 子どもの44%
- 教育を受けていない 5人に1人の子ども



Republic of Angola

アンゴラ「子どもにやさしい学校」活動・進捗状況

※2024年12月時点・日本ユニセフ協会提供資料より抜粋

活動の進捗状況 ①

トイレ・手洗い場の修繕・設置

これまでに4州38校に水と衛生の施設を提供!



1691小学校に設置された手洗い場とムヤナゴンベ小学校に設置されたトイレ

活動の進捗状況 ②

先生の能力向上

これまでに4州2,746人の先生を研修!



生徒参加型の授業の様子

活動の進捗状況 ③

学校運営の強化と地域の参加

これまでに4州11市2,412人を研修!



校長先生や地域住民への啓発・研修の様子



子どもの学習環境を改善するために学校と協力しています。

学校改善計画の研修を受けた保護者委員会のマリアさん

学校施設の提供だけでなく、なかみの支援も大切にしています。

対象商品の一例



やわらかコアノンロール シングル



やわらかコアノンロール ダブル



子どもたちが楽しく学べる環境づくり

教師の育成

安全な水の整備

取り組み内容

- 1 CO・OPコアノンシリーズいずれか お買い求めください
- 2 1パックにつき1円をユニセフを通じてアンゴラ共和国に寄付
- 3 支援できること

ピンクリボン運動キャンペーン

乳がんで悲しむ人をなくしたい ▶ 乳がんに対する啓発と患者や家族の支援を進めます。



日本生協連は、認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)の「ピンクリボン運動」に賛同し、2017年10月よりサポーターとなりました。キャンペーンを通して、J.POSHの推進する啓発や助成などの種々のプログラムを応援するものです。

[2025年度キャンペーン期間]
2025年9月1日～10月20日(期間限定)
*カタログ「くらしと生協」は通年予定。



対象商品の一例



コープ化粧品シリーズ全品



カタログ「くらしと生協」ブラジャー全種

取り組み内容

- 1 対象商品いずれかをお買い求めください
- 2 1品につき1円をJ.POSHへ寄付
- 3 乳がんに対する啓発と患者や家族の支援を進めます

2024年度全国の生協での寄付金総額

コープ化粧品 **102万6,786円**

くらしと生協 **46万8,216円**

パラノルディックスキー応援キャンペーン

困難を乗り越え挑戦する人々を応援したい ▶ 「パラノルディックスキー」の育成チームをサポートします。



本商品はパラノルディックスキー育成チームを応援しています
1袋につき1円を寄付

対象商品の一例



CO-OP

応援食 ココアクッキー+鉄分&たんぱく質



2017年9月よりスタートした取り組みです。対象商品を1点お買い上げいただくごとに1円が、公益財団法人日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担う育成チームに寄付されます。



2023年度寄付金贈呈式



次世代指定選手 松土琴葉選手から

組合員へメッセージ

「ノルディックスキーは、アクティビティとしてスキーを履いて自然の中を歩くだけでもとても楽しいです。もっとたくさんの人に競技を知って、そして私たち選手を応援してもらえたらうれしいです。」

取り組み内容

- 1 対象商品いずれかをお買い求めください
- 2 1品につき1円を日本障害者スキー連盟に寄付
- 3 寄付金は「パラノルディックスキー育成チーム」の活動資金として活用されます

[2025年度キャンペーン期間]
2025年3月21日～2026年3月20日(通年)

2023年度全国の生協での寄付金総額

43万5,782円

エシカル消費
知ってる？
実行してる？

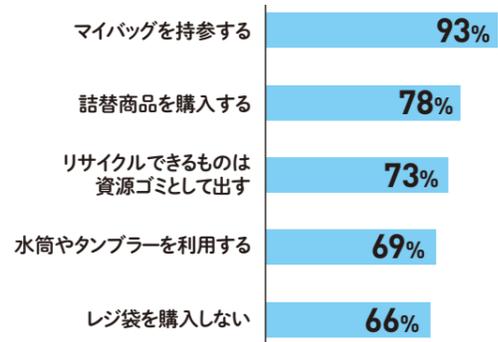
組合員のエシカル消費・サステナブル・SDGsに対する意識について

組合員WEBアンケート調査：くらしと商品に関するインターネットアンケート「人や環境にやさしい消費活動についてのアンケート」
2023年7月6日(木)～2023年7月11日(火) n=6,112件

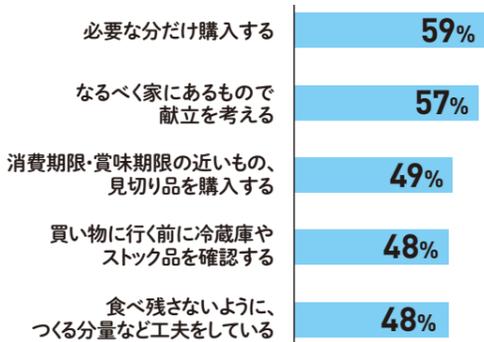
世の中に先駆けて「エシカル」な取り組みをしてきた生協・組合員ですが、
今エシカル消費やサステナブルについてどう思っているか、どんなアクションをしているかなど聞いてみました。

サステナブルに貢献するために日ごろから心がけていることについての質問では、
多くの組合員が自分でできる範囲で積極的に取り組んでいる様子がありました。

家庭でプラスチックゴミを減らすためにしていること

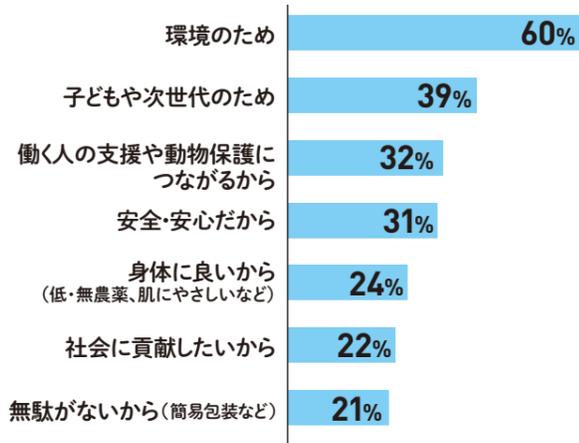


家庭で食品ロスを減らすためにしていること

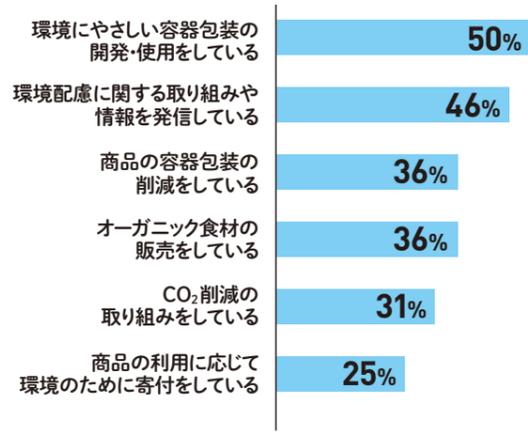


どのような意識でエシカル消費に取り組んでいるか、またCO・OP商品のイメージについての質問では、特に「環境」に対する意識が高いことがわかりました。

エシカル消費などをする理由 ※上位のみ



CO・OP商品の環境配慮への取り組みに対するイメージ



環境のため、生産者の支援のため、そして未来の世代の子どものため、
日常生活からふだんのお買い物まで、自分でできることはないか
ひとりひとり考えることが大切です。そういった「できること」のお手伝いをするのも
CO・OP商品の大切な役目です。

Ethical Voice

組合員のエシカルな声



「誰かの笑顔につながるお買い物」
これからもコープは
エシカル消費への取り組みを
続けていきます。

トイレトペーパーの紙芯をなくすことで、
省エネ・省資源、紙量が多いので
交換・買い物の手間が少なくて
良いという、素晴らしく画期的な商品。
たくさんの試行錯誤を繰り返し
「組合員さんの便利」を追求し続けている。
ごみ削減・再生紙を原料だけでなく、
エシカル消費にもいち早く
取り組んでいるのが素晴らしい。

カートンボックスを使用している
工場が少ない中で、
環境配慮と生協のために
さまざまな洗剤をつくってくださり、
大変ありがとうございます。

普段手にしている商品を使っただけで少しの貢献になっている
というのは嬉しいです。

大変なご苦労の中、
1代2代と引き継がれ持続可能な養殖の
実現を行われ、マングローブを植林。
一度なくした環境を取り戻すのは難しいですね。
自然を再生し環境を良くして、生産が増えれば
良いですね。うまくいくように願っています。
おいしくて品質の良いブラックタイガーを
待っています。

自分の何気ない行動が
「誰かの笑顔につながる」ことは、
とても素敵だと思う。

できるだけ大切な
資源をムダ使っていないで、
エシカル消費を増やし、
より楽しくまわりにも伝えていきたい。

